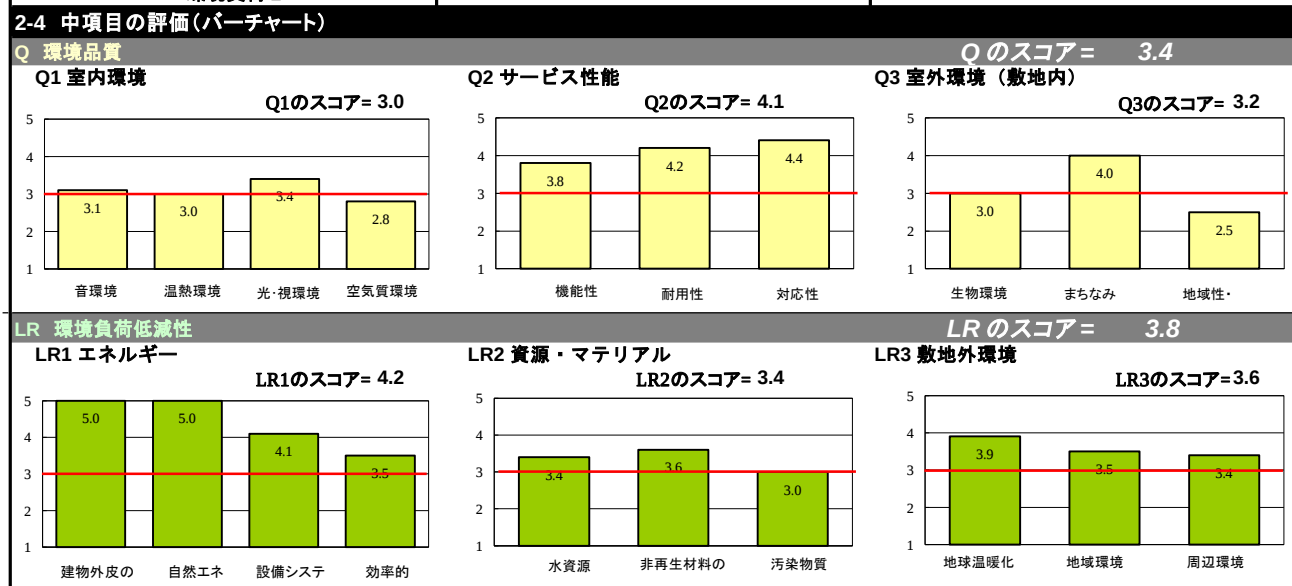
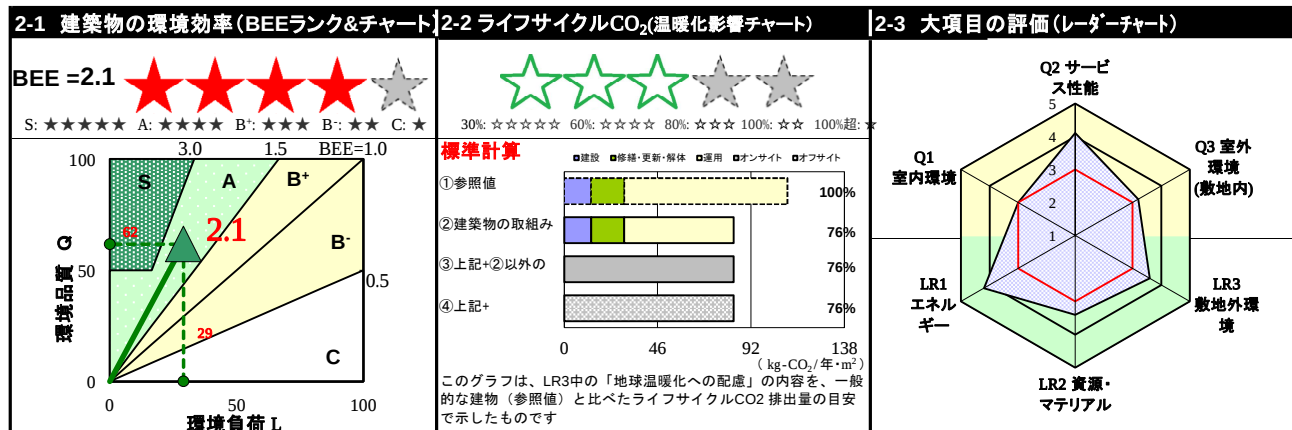


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社キーエンスロジスティクスセンター	階数	地上6F
建設地	大阪府高槻市井尻	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,500 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2025年1月27日
敷地面積	38,797 m ²	作成者	大澤智
建築面積	21,086 m ²	確認日	2025年1月27日
延床面積	79,957 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合		
・BEIm=0.69、BPIIm=0.59であり、省エネ性の高い設計となっている。 ・自然エネルギー(トップライト、クールヒートトレッチ、クールーフファン、太陽光発電)を多く利用する計画としている。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・トップライトやブラインドを採用し、快適な室内環境の構築に配慮した。	・屋外露出、高湿系統排気ダクトはガルバリウム鋼板またはステンレス鋼板の材質とし、長寿命化を図っている。	・メインの機器置き場を屋上に設けることで、極力GL+10m以上で室外機などからの排熱を出すように配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・BEIm=0.69、BPIIm=0.59であり、省エネに配慮した設計となっている。 ・トップライト、クールヒートトレッチ、クールーフファンを採用しており、自然エネルギーを多く利用する計画となっている。	・躯体へのリサイクル材の採用。	・周辺環境に配慮し、燃焼機器を採用していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		株式会社キーエンスロジスティクスセンター新築工事							
建設地		大阪府 高槻市井尻							
用途／区分		工場 事務所							
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A		
①	CO2削減						4		
②	みどり・ヒート アイランド対策						3		
③	断熱性能						5		
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分		評価対象外			評価対象外		
④	エネルギー消費性能						4		
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分		評価対象外			評価対象外		
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分					4		
⑤	自然エネルギー直接利用						○		
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	地中熱	○
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—

エネルギー消費量の報告						報告しない	
-------------	--	--	--	--	--	-------	--

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮	3.9	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出	3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制	5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化	4.1	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用	5.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項	BEIm 0.69、BPIm 0.59 外気をクールヒートトレンチを経由して取り入れることにより、外気負荷の削減を行った。	